

国際ロータリー第 2790 地区第 5 分区

2010-11 ロータリー情報研究会報告書

2010-9-26 館山夕日海岸ホテル海幸苑



ホストクラブ 館山ベイ ロータリー・クラブ
ガバナー補佐 佐野 昭雄
会 長 渡邊 直道

第5分区ロータリー情報研究会プログラム

		司 会 分区幹事	鈴木 照夫
14:00	開会 点鐘	ガバナー補佐	佐野 昭雄
	国歌並びにロータリーソング「奉仕の理想」		
14:05	ホストクラブ会長挨拶	館山ベイRC会長	渡邊 直道
14:10	ガバナー補佐挨拶並びに地区委員ご紹介	ガバナー補佐	佐野 昭雄
14:15	地区職業奉仕委員長挨拶	パストガバナー	土屋 亮平
	地区クラブ研修委員長挨拶	クラブ研修委員長	海寶 勘一
	地区クラブ研修委員卓話	クラブ研修委員	川名 光俊
		演題「私たちは何故週一度ロータリーに集うのか」	
14:40	休憩		
14:45	バズセッション (各テーブルごとに討議)		
15:45	意見発表 (各テーブルごとに発表)		
16:15	ガバナー補佐総評	ガバナー補佐	佐野 昭雄
16:20	閉会 点鐘	ガバナー補佐	佐野 昭雄

懇 親 会

司会進行	館山ベイRC幹事	田村 知教	
16:25	開会 挨拶	館山ベイRC会長	渡邊 直道
	乾杯		
	懇談		
	ロータリーソング「手に手つないで」		
17:30	閉会	分区幹事	鈴木 照夫

第5分区 ロータリー情報研究会

ホストクラブ会長 挨拶

館山ベイロータリークラブ

渡邊 直道

皆様こんにちは。お忙しい中お集まりくださいましてありがとうございます。

今年度ガバナー補佐輩出クラブの会長を仰せつかっております渡邊でございます。

分区内の各行事を取りまとめる重要な役割を、佐野ガバナー補佐、そして鈴木分区幹事と共に、館山ベイロータリークラブ一丸となり務めさせていただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

本日はその第一歩となります、ロータリー情報研究会であります。その年の地区の提案がございまして、昨年までは何年か他分区と合同での開催でございましたが、今年度は地区より各分区単位での開催をうけたまわり、館山ロータリークラブ所属の川名地区委員をリーダーに、私どもの大好きなパストガバナー土屋地区職業奉仕委員長、そして海寶地区クラブ研修委員長を迎えましての情報研究会でございます。充実したご討議をお願いいたします。

後ほど各テーブル毎のバズセッションが1時間程ございますので、地区委員長やリーダーにロータリーの分からない点など、各自質問がございましたらお聞きするのもよい機会だと思いますので、胸のリボンをお探ししてお尋ねください。

不慣れな設営でございますので、不備の点がございましたらお許してください。

今年度、各分区行事を頑張って切り盛りいたしますが、何より皆様方のご協力が一番大切でございます。

重ねてお願い申し上げ、ホストクラブ歓迎の挨拶といたします。

ロータリー情報研究会挨拶

第5分区ガバナー補佐

佐野 昭雄

皆さんこんにちは。

本日はご多用のなか、情報研究会にお運びをいただきありがとうございます。

本日の研究会の趣旨につきましては、先ほど渡邊会長が説明申し上げたとおりでございますので、私からは何もいうことはございませんが、聞くところによりますとこの情報研究会なるものは2790地区独特のものだそうで、ちなみにIMは日本だけだそうでございます。

こうした有意義な研究会を残してくれましたロータリーの先輩たちに感謝しつつ、また本日の研究会を成功裡に終了させることが、先輩たちのご恩に報いることではないかと考えております。

今の季節は秋、お彼岸も過ぎまさに実りの秋でございます。

本日の情報研究会が、実り多き研究会となります期待をしましてご挨拶と致します。

■ごあいさつ

国際ロータリー第 2790 地区

職業奉仕委員会委員長 土屋亮平様(松戸 R C)

国際ロータリー第 2790 地区・第 5 分区ロータリー情報研究会の開催に当たりまして一言、ご挨拶を申し上げます。

織田ガバナーより、本年度のロータリー情報研究会は地区職業奉仕委員会が担当するよう指示されました。そこで地区協議会分科会の職業奉仕委員会部会の席上で、研究会開催の要請を致しましたところ、各分区ホストクラブから挙ってのお申し込みをいただきましたこと、改めてお礼申し上げます。

また、この度の第 5 分区ロータリー情報研究会の開催に当たりましては、佐野ガバナー補佐様には適切なるご指導を賜り、渡邊会長率いる館山ベイロータリークラブ会員皆様のご努力により、立派に準備をしていただきましたことに対し、衷心より感謝申し上げます。

さて、本年度の織田ガバナーは 5 大奉仕部門の内、職業奉仕が最も理論的であり、倫理的であると結論づけられました。その理由から、各クラブの理事会が、R I から提示される諸々の案件につきまして、是々非々の判断を可能にさせるために、クラブの職業奉仕委員会の中にクラブ研修委員会の設置を要請されております。

特に、織田ガバナーは各分区毎に開催されますロータリー情報研究会のテーマも「私たちは何故週一度ロータリーに集うのか」と示され、『出席なくしてロータリーなし』と言いますが、出席の意義を再確認していただきたいとの思いと拝察いたします。

出席と申しますと、これはクラブ奉仕の分野ではないのか？ベテラン会員からは、今更、当たり前のことを議論するのか？等のご意見を聞きますが、ロータリークラブの定例会は些か異にします。例会と言っても一連のセレモニー、食事、卓話以外にロータリーの例会はもっと深遠なものが存在しなければなりません。それを本日掘み採っていただきたいのです。それこそが、職業奉仕を理解する上で大前提であるからです。

第 5 分区のロータリアンの皆様、今日の研究会は皆様の研究会であります。敢えて言わせていただければ、地区職業奉仕委員の任務は職業奉仕への道案内人に過ぎません。実り多く研究会になります事を期待いたします。

混迷する社会で生き残る道は、唯一、職業奉仕の実践『大道無難』に尽きます。

■ごあいさつ

地区クラブ研修委員長 海寶 勘一様(千葉西RC)

第5分区6クラブの皆さまこんにちは。

只今ご紹介を賜りました、地区職業奉仕委員会に属し、クラブ研修委員会の委員長であります、千葉西ロータリー・クラブに所属する海寶勘一です。

只今は5分区佐野昭雄ガバナー補佐さんと渡邊直道館山ベイRC会長さんのご挨拶にもありましたが、今年度は織田ガバナーからスタイルを磨こうという地区テーマを頂き、そのためには職業人としてのロータリアンの基本である職業奉仕をよく理解をして、一層ロータリーライフを有意義にさせていこうと、委員会活動がスタートをされております。

再度の御説明になりますが、各14分区でロータリー情報研究会を開催して頂き、分区の皆さまのグループ討議において、「私達はなぜ週一度ロータリーに集うのか」のテーマをもって、自由闊達なグループ討議をして頂きたいと思っております。

土屋地区職業奉仕委員長さんが、いつも口癖に申される言葉は、ロータリーの職業奉仕をもっと簡易に受け止めて、ご自身が日常携わっている事業経営の理念や姿勢そのものを、例会で集う仲間とともに自己研鑽をすることです、と仰っております。

毎週の例会では、形式や形骸化されたことだけではなく、もっと活発な会員同士の交流をもって、研鑽や修練や感化をしあうことができるようにしたいものです。

これから川名光俊地区委員の卓話を参考にされて、是非とも意義のあるグループ討議をして頂ければ幸甚ですし、先ずはご自身の事業繁栄に結びつけて一層の職業奉仕の心を磨いてほしいものです。

最後になりましたが改めまして、第5分区のロータリー情報研究会を設営して頂きました、佐野ガバナー補佐さんと、館山ベイロータリー・クラブ渡邊会長さんには多大なご支援を賜りましたことに、心からの感謝と御礼を申し上げます。

ご理解とご尽力をくださり誠にありがとうございました。

2010-9-26

国際ロータリー第2790地区

地区クラブ研修委員会委員長 海寶勘一(千葉西RC)

卓 話

演題 「私たちは何故週一度ロータリーに集うのか」

地区クラブ研修委員
川名 光俊(館山RC)

皆さん、こんにちは。

只今、ご紹介を頂きました地区職業奉仕委員会のクラブ研修委員会委員を仰せつかっております、川名でございます。

所属クラブは、地元館山ロータリークラブであり、職業分類は清酒卸しであります。第5分区内で酒類飲料等の卸販売をさせていただいております。本日は、第5分区佐野ガバナー補佐並びに館山ベイロータリークラブ、渡邊会長はじめ会員の方々には「ロータリー情報研究会」を設定していただき、誠にありがとうございます。心より御礼申し上げます。

今年度、織田ガバナーからは、土屋亮平パストガバナーが主管する職業奉仕委員会に所属する、私達地区クラブ研修委員に対して、各分区ごとに行われる「ロータリー情報研究会」で、テーマ「私達はなぜ週に一度ロータリーに集うのか」について、分区の皆様のお手伝いをするようにと使命を頂きました。

昨年のロータリー情報研究会は、私もお手伝いさせて頂きましたが、地区広報・情報委員会が主催した「決議23・34からロータリーを知ろう」というテーマで、第2790地区を4つのグループに分けて実施させて頂きましたが、織田ガバナーは、「クラブの強化はロータリーの綱領を推進すること、つまり、職業倫理高揚実現のため」、クラブ会員は、綱領を遵守する義務を負っており、まず足元をしっかりと見つめ、原則を確認した上で、活発な活動を展開して行くことを願っております。また、日本のロータリーの危機ということにも大変関心、心配をなさっており、多くの会員の方々に原点・原則に還って、十分なお話し合い・討議をして頂きたいということで、14カ所での情報研究会の実施になったわけであります。宜しくご理解の程お願い致します。

本日、卓話をさせていただきますが、私の役割は職業奉仕委員会で学び得た事、一般的に難しいと言われる職業奉仕と例会の出席の関係をできるだけ解り易く皆様にお伝えし、その後のグループ討議の為にいくらかの手助けになればと思っておりますし、皆様と勉強をさせて頂き、素晴らしい情報研究会になるよう願っております。

これからは、まったくの主観であり、地区委員を仰せつかっても、浅学非才の私でありますので、間違った見解等々沢山あると思っておりますが、ご理解の程宜しくお願い致します。

先程、冒頭でふれさせて頂きましたが、織田ガバナーは、ロータリーの綱領を非常に大事にそして正しく理解して頂きたい、そして4大奉仕の中心として存在するのは職業奉仕であり、ロータリーは職業倫理を高揚することを目的としてあげた唯一の団体で、ここを見失うとロータリーではなくなるということを肝に銘じなければならないと言われております。

国際ロータリー定款第4条、綱領「ロータリーの綱領は、有益なる事業の基礎として奉仕の理想を鼓吹し、これを育成し」と書かれております。簡単にいうと、「ロータリーの目的は、社会的に価値ある企業活動の基本となるよう、奉仕理念を導入し、育み・・・」となり、綱領の主文は、職業奉仕について述べていることとなります。これがロータリーの根幹は、職業奉仕にあるという所以であります。

特に、第2項において、職業奉仕が強く表現されております。

綱領の第2項「事業および専門職務の道德水準を高めること、あらゆる有用な業務を尊重されるべきであるという認識を深めること。そしてロータリアン各自が業務を通じて社会に奉仕するために、その業務を品位あらしめること」とあります。難しく言っておりますが、要するに、自分の仕事に誇りを持ち、自信を持ち、且つ責任を持って大いにかせぎ、相手に対する思いやり、道徳的向上に努めればその結果、当然社会を潤すに違いありません。これが奉仕であり、職業奉仕の神髄であると言われます。

ロータリーの綱領から推察するに、ロータリークラブは職業倫理の向上を図る事を目的とした団体であり、同士の集まりであり、会員は、一業種一会員を原則として、週一回の例会を持ち、会員相互の交流を通して自己啓発を図り、道德水準を高め、その心を持って自らの職業を通して社会に貢献することを目指している倫理運動です(すなわち職業倫理の向上を図るということになります)。

従って、ロータリーは、人材錬成、人づくりの場であり、「ロータリーは、人生道場である」と言われる所以であります。そしてまたロータリーは、自己研修の場であると認識し、例会出席をしたら良いのではないのでしょうか。

ロータリークラブと言うのは、例会出席と親睦を考えると、(ゴルフや飲み会、温泉旅行など食事を供にすることも必要であり大事な事です)がロータリーの親睦で忘れてならないのはお互いに良く知り合う事、そしてお互いに尊敬し合えるようになる事であり、お互いに「相手の身になって考える」という修練を積むところであると認識を持つことでもあります)つまり知り合いを広め相互理解を求めるということを骨格として、それに奉仕(職業奉仕の実践)の肉付けをし、情報と言う血液の循環を良くして職業倫理の向上を図り、奉仕の人を育てる場所であります。だとすると、ロータリーの三大義務としている出席無くして親睦も無ければ、互いの情報と言う血液を受けるという事も無くなるのではないのでしょうか。そして当然奉仕の肉付けもお粗末になるという結果が見えてきます。だから出席は、目的ではなく目的に達する最重要な手段ということになります。

出席を語るとなると前提としての例会を語らなければなりません。

例会の目的は

会員同士、切磋琢磨して、自己研鑽に励み、己の足りないところを仲間から学び、異業種の優れた指導者、向上心の強い人との出会いを深め、自己の心の改善を計ることにあり、その結果、奉仕の心、即ち思いやりの心、愛が育まれる場所でなければならないということになります。

(故に、会長・幹事は、例会に出席する大きなメリットを創出する事の責任がある)常にSAA、プログラム委員会、親睦委員会との連絡、決定の確認等々を行う必要があると思います。

また出席会員の心得として

例会は、会員一人一人の積極的な参加によって作られるものであり、一人ひとりの出席が、例会を変えロータリーを変え貴方と貴方が関わる家庭・職場・社会生活を変えるという認識を持つ事が必要ではないかと思えます。

「人は人の中でしか育たない」

「何気ない会話の中にヒントがある」

(ダイオード、青い光)

私の所属している館山ロータリクラブにおいて、最年長かつ大先輩である、皆さん良くご存じの飯田会員(92歳)は、戦後4年半、シベリアに抑留されていたということでもあります。例会において、年に一度は卓話を頂いておるのですが、戦争はむごい、2度としてはならない、人生は大事に生きて、強く生きて下さいと話されます。弾丸がヒュン、ヒュンと頭上を過ぎていく時は怖いことはない。自分の周囲にブスブスと突き刺す様な音が聞こえた時はだめかと思った事も何度かあったとっておりました。

その後抑留時代、帰国したら、戦友、国の為に必死に働くことを心に誓ったと言っておられました。帰国後、周囲に押され、全国で2番目に若い村長になられ、その実績で経営がひっ迫しておりました信用金庫理事長をお受けになり、従業員と共に夜毎、お客様の心をつかみ商売繁盛させるかを考え、3年間で約10倍の預金残高を上げて全国1位の伸び率を上げたということです。

この様な人生訓、職業に対する一途な思いなど私にとっては、一言一言が血、肉となっていくお話を聞けるのも、週に1回の例会があるからだと思っております。

飯田会員は、週1回の例会は、異業種の集まり、利害の無い会員同志の中での意見のやりとり、昨日あった出来事などを語り聞く事に依って、1年間を通して出席してみると

それだけで人間的に成長していくのだということをおっしゃっていました。現在は耳が少し遠くなり、例会の卓話や会員相互の語り合いも聴きとりにくくなってきましたが、例会の場の温かさと会員の動きをみているだけで楽しむことが出来て長生きの秘訣ですとっておられました。

といくつかお話しをさせて頂きましたが、ロータリーとしての根幹とされている職業倫理の向上、職業奉仕の実践を行う事の原動力は、やはり原点である週に一回の例会に出席し先輩又新しい会員の方々の話を聞き、自分には足りない行動パターンをまねするために（自己研鑽）親睦を深め、委員会活動に積極的に参加する事ではないでしょうか。

終りにあたり、今回の情報研究会はこの後のグループ討議テーマ「私達はなぜ週に一度集うのか」の中で職業奉仕と例会出席の関わり合いを皆様で話し合ってくださいと思います。そして、得られた知識をクラブに持ち帰って頂きクラブ内での話し合いのきっかけ、スタートの場をつくる事が一番の役目であることを十分ご理解を頂きたいと思っております。又は、織田ガバナーが地区テーマの内容の中で、ロータリーの今後について大きな心配を抱いていると思えてなりません。

職業奉仕理念の衰退、歯止めの効かない会員減少、例会の形骸化、それに依るクラブ運営の迫力不足、地元地域へ積極的奉仕活動の減少等々、これらの事も今後のクラブの話し合いの中に組み入れて頂けたらと思っております。この情報研究会が実りある充実した会になることを願って私のつたない1話を終わらせて頂きます。有難うございました。

第5分区 ロータリー情報研究会グループ討議

平成22年9月26日(日) 館山夕日海岸ホテル海幸苑 14:00 ~17:30

参加者 地区職業奉仕委員長 土家亮平 様 地区クラブ研修委員長 海寶勘一 様
リーダー 地区クラブ研修委員 川名光俊 様
館山 RC 10名、鴨川 RC 8名、勝浦 RC 7名、千倉 RC 11名、
鋸南 RC 11名、館山ベイ RC 19名 (総人員 68名)

式次第は、別紙プログラム 参照

テーブルバズセッション発表 (8卓に分かれて討議、各リーダーが発表)

第1卓 リーダー 館山 RC 小林覚道 氏

職業奉仕を原点から見直し考える、自己を磨く場、自己研鑽をいかにするか。奉仕を実践していると感じたのは、阪神淡路震災での奉仕活動。仕事を繁盛させたい、自己のピール、他のロータリアンと知り合いたい、などの理由でロータリーに入会した。

出席は会員同士の信頼度を高める事が重要。ロータリーの理念を理解する場が必要ですが、なかなかその場を作ることが難しい。親睦と奉仕をする集まり。

第2卓 リーダー 鴨川 RC 羽鳥鋭一 氏

週一度ロータリーに集って、見た事、聞いたことが、自分の為になっています。

第3卓 リーダー 鋸南 RC 高橋喜安 氏

例会に出席することにより、ロータリーの原点を知ることが出来る。自分が出席しないと、出席率の低下など、他の会員の迷惑になるので出席する。ロータリーの魅力を満喫したい。他の会員の会話が自分の為になる。会員が減り外部卓話者を呼びづらい。

第4卓 リーダー 館山 RC 吉田政紀 氏

推薦者にお願ひされて入会した会員が多い。仕事が増えるかも？ 自分の資質の向上

の為。4つのテストが素晴らしいので入会した。週に一度、会員に会えるので例会はかささないで出席。生活にメリハリが出来るので出席。長生きの素。

第5卓 リーダー 館山ベイ RC 岡本良二 氏

週に一度ロータリーに集うのは、各会員が習慣にする事が大事。家族や社員の理解がないと、例会の出席も難しくなるので、まず理解して頂く事。週に一度メンバーに会える、年に何度か分区の仲間とか、友好クラブの仲間とか、地区の仲間に見える事は素晴らしい事。新会員を推薦入会させると、その新会員の為にも例会に欠席が出来なくなるので、皆様新会員を推薦して、増強しましょう。

第6卓 リーダー 館山 RC 小原貞夫 氏

先輩方との交流が出来るから出席する。仲間のメンバーに会えるから。他業種の会員からの情報がいただけるから。自分の人生道場だと思っているから。義務を果たす感で出席している。例会日の朝、奥さんに今日ロータリーだから自宅に昼食はありません。といわれるので出席する。

第7卓 リーダー 千倉 RC 川名幸雄 氏

習慣化する事が大事。ロータリーを楽しむ。業種の代表として会員となったことで、自分のモチベーションとなる。自分の人間関係が豊かになる。家族の応援が不可欠。会員卓話などの時に、いろいろな分野での自分の取り組みについて語ってほしい。

第8卓 リーダー 勝浦 RC 水野敬泰 氏

魅力がなければ例会に出てこなくなるので、各クラブごとの魅力があるから、週一度集うのだと思う。自分の職業に自信を持ち、誇りを持って邁進することが大事。会員増強については、数を重視して質がおろそかにならないように心がけたい。ロータリーの綱領や4つのテストを理解したいと思う。

会 費 各クラブ 50.000 円 x 6 クラブ = 300.000 円

支 出 ホテル 議事会場 懇親会場 懇親会飲食物 = 合計 300.000 円

ロータリー情報研究会総評

第 5 分区ガバナー補佐

佐野 昭雄

本日は皆様大変お疲れさまでした。
皆さんより貴重なご意見を頂戴いたしました。

ロータリーの危機が叫ばれて久しいといわれますが第 5 分区に関してはそうした心配はないと確信した次第です。これからは奉仕の理想をとおしてロータリアンとして成長できるよう精進を積んでまいりたいと決意を新たに致しました。

皆様方におかれましては、それぞれのクラブで本日の体験を活かしていただければクラブの活性化に寄与することになると存じます。

パストガバナー土屋様そして海寶様、川名様に改めて御礼申し上げます。
どうも本日はありがとうございました。

第 2790 地区 第 5 分区 ロータリー情報研究会 席次表

1 リーダー 小林 覚道・(館山)		2 リーダー 羽鳥 鋭一・(鴨川)		3 リーダー 高橋 喜安・(鋸南)	
土屋 亮平 地区	村松 武郎 千倉	海寶 勘一 地区	中邑 明俊 鋸南	川名 光俊 地区	神谷 康夫 鋸南
鈴木 健史 千倉	小西 安彦 館山	吉岡 諭史 鋸南	笹子田鶴子 千倉	森 喜弘 千倉	小澤 昌利 千倉
網代 孝 鋸南	鈴木 祥枝 鋸南	佐藤 信也 鴨川	小畑 和美 千倉	斎藤 三郎 館山	福原 暁 館山
鈴木 照夫 ベイ	三平 浩嗣 ベイ	海老原 斉 ベイ	池田 康弘 ベイ	佐藤 均 ベイ	角田 博 ベイ

4 リーダー 吉田 政紀・(館山)		5 リーダー 岡本 良二・(ベイ)		6 リーダー 小原 貞夫・(館山)	
佐野 昭雄 ベイ	石井 幹雄 館山	島田 誠一 鴨川	小林 裕明 鴨川	堀江 俊彰 千倉	青木九二雄 千倉
古市 一雄 鴨川	武田将次郎 鴨川	牧野 利美 勝浦	池田 哲夫 勝浦	辻田 昇 千倉	加藤 仁 館山
青木 秀夫 鋸南	三橋 美子 鋸南	鈴木 陽一 ベイ	渡邊 直道 ベイ	中村 満 勝浦	漆原 摂子 勝浦
平嶋 京子 鋸南	田村 知教 ベイ	坂東 秀則 ベイ		渡邊ヒロ子 勝浦	山崎 房子 ベイ

7 リーダー 川名 幸雄 千倉		8 リーダー 水野 敬泰 勝浦	
池田 勝 ベイ	早川 勉 千倉	関 正己 勝浦	鈴木 敦 鴨川
鈴木 好美 ベイ	渡辺 正昭 鋸南	神子神徳重 館山	佐藤多恵子 鴨川
牧野 雅行 ベイ	手塚 節 鋸南	寺田 信彦 館山	角田 吉夫 ベイ
石井 英之 ベイ		本多 成年 ベイ	関 祐介 勝浦

《 順不同 敬称略 》
誠に申し訳ございませんが
任意にリーダーを決めさせて
いただきました

(職業奉仕委員長を目安にい
たしました)